

水源禪師法話集 80

(2017 年 5 月 7 日 大阪合宿 9 日目)

2018 年 9 月 29 日
一乗禪の会



目次

水源禪師法話.....	1
お釈迦様が座った菩提樹の下で.....	1
宇宙人も獲得できない宇宙の最高の宝・それを私達に与えてくれている.....	2
自分の体験なしのインフォメーションではいつまでも進化しないし、劣化し始める.....	2
お釈迦様の純化されたDNAを本当の心の旅、法の旅により段々わかって来る.....	3
かたや検証なしの言葉並べ、片や師からの心心伝印の無言の種を植えてくれる.....	4
水源禪師のご先祖様の 2 千年、5 千年の杓子で測らなければ.....	5
小っちゃいお椀の中に閉じ込められている心は、実は宇宙よりも大きい.....	6
ただ一つ「心の徳」だけが災難を防ぐ.....	7
お釈迦様がサラバッティーの町で大商人だった(ジャータカ物語).....	7

水源禪師法話

お釈迦様が座った菩提樹の下で

そうですね。2009年ですね。2009年に来日して、9年目。まあ、あつという間に9年経つのですね。私の仏教の旅もやっぱり般若心経の旅で。般若心経は分からないながらも、只々、只々唱えていって。それでまあ何と言うか、それでまあ実にあっちの山、こっちの山も段々と段々と高い山に登らされて。ヒマラヤの山に登って、6200メートルも一人で登って。一回り57キロのカイラス山を三回回って。人も誰もいないのですよね、チベットなんて。でまあ、それと般若心経を唱えながら、唱えながら。

やっぱり何時でもお釈迦様の事が心にあつて。そして、もう昔から天竺、天竺、インド。「インドには行きたい、インドには行きたい」と。ちょうど、お母さんが死んでから7回忌にね、もう会社は無理を言って、7週間の休み。それでインドに行つて、インドずうっと回つて、まずはガンジス河に行つてね、父と母の灰を流して。バナラーシですね。よくブラマダッタがちょうどバナラーシのキングだったと、何回も出て来るそのバナラーシ。インド最高の精神界の町ですね。そこでうまく死んで行けば天界に生まれると。だから皆そこに行つて死を待つわけですね。それで、やっぱりそのバナラーシに行った時、いやあーハヌマーンが映像でサーッと出て来たりね。シヴァの映像もバーッと出て来たり。パールヴァティーと言う女神とか、何かアキシムミラ、パルバティー、ラキシュミラと言う三人の女神がウワーッと出て来たり。まあ、何かそう言う風に、見た事もない様な色んな神々がサーッと現れて見せてくれるわけですね。バナラーシと言う所は違ふのだなあと。

その近くに高原の方に鹿野苑もあるしね。それで一番インドで良かったのは、そういう凄い奇跡的なものを見たと言うよりも、お釈迦が坐った菩提樹の下で朝な夕なに一週間坐れた。と、まあ何かセッティングと言うか。皆知っているけれど、その時はまだ行く人は少なかったと言うか。その町に行くにも、駅に着いてタクシーに乗って行くのだけれども、一人で。何にも分からず、誰のつてもなくパーッと一人で行く訳ですよ。それでも行き着けるわけなのですよ、、、。それで、「お釈迦様がここで坐ったのか」と。まあ、まあ、気持ち良くて。それで「ここに7日7晩坐ったのか」と。この木の下で。今はもう無理。全部、その後行ったら、鉄の柵が出来て誰も入れなくて。ちょうど私の時は上手くいったわけです。あつちもゆったりして、門番もなくて、何かスーッと行つて自由だけれど、段々厳しくなっていますね。段々。人が多ければ。それで、「ここで7日7晩、只歩いたのか？」と。そこから離れて、それで歩行禪になるのですね。また7日7晩ジーツと丘の上に坐つて、お釈迦様が悟りを開いたそこを見ているわけですよ。全部で7週間。最後は坐っていたら、水がゴーツと降つて来て池になるわけですね。そこでナーガ、7つの頭のナーガが出て来て、傘みたいにこうして守るわけですよ。そのまま瞑想を邪魔させない様に。

だから、それで、「ああ、なるほど、 $7 \times 7 = 49$ 。それで観音様で、そう言う事なのか」と。一日でそう坐って成仏ではなく、やっぱりその後ずうっと検証したのですね。検証に次ぐ検証でずうっと。それで「はあ、そうなのか」と言う実体験ですね。今でもブッダガヤに行けば、ちょうどそのお釈迦様の聖地に巨大なビハール(精舎・僧院)があって、その中で坐れますけれど。もういっぱいクティとが出来ていました。私が一番良かったのは、私の行った時、その菩提樹の下で坐れたと。やっぱり、それが一番何かこう体に沁み渡っていますね。消えないですね。何時までも。スーッと。「うわあ、やっぱり。ただ、どこでも坐って成仏出来る訳ではないのだ」と。それでその時に思いました。」

宇宙人も獲得できない宇宙の最高の宝・それを私達に与えてくれている

まあ、その時はそう思わずに坐っていたけれど、今スリランカにその原木があるのですね。原木。と言うのはイスラムが来る前にそこを 50 メーターか 60 メーターの土で埋めたのです。

其処には原木がなく、100 年位前に発掘したわけです。この場所は文献にあるからで、探し当てて今のブッダガヤがあるのだけれど。瞑想していたら未来が観えるからね。当時の優れた比丘様方は何がやって来るか時空を超えて観えるので。それで、土で埋めて防ぐわけです。だから、そのお釈迦様の坐った場所を、まあ千年間守ったと言うか。

それで、やっぱり考えが全然違うわけなの。と言うのは、西洋の考えは神と言う。実は神と言っても源流が宇宙人なのです。だから全然、その心の志向が違うわけです。結局、本当に宇宙船に乗って来て、そう言う私達に色々こう作用して、今でもそうだけれども。ところが、私達は見えただけで。ところが、お釈迦様はこの人間の体でこの人間の DNA を使って、結局、宇宙の最高の宝を私達に与えると言う事をしてくれる。それが仏なわけだから。幾ら宇宙人でもそれは獲得出来ないわけです。その体がね、宇宙人でも千年、二千年とか生きるし。また、100 歳でなければダメなのです。100 歳以下。お釈迦様、100 歳の寿命で 80 歳。この DNA でなければこの悟りに入らないわけです、宇宙的な力関係と思います。つまり因果の法則との関係ですね。

ところが、特に宇宙人は 1 万年とか、もう自由自在に体を変えてしまっているから、もう機能不全になっているわけ、精神界では。ただ、それを物理学的にとか解析、分解してやろうと言うけれども、それは無理。心はもう宇宙以上にでっかいから。本末転倒をやっているわけです。

自分の体験なしのインフォメーションではいつまでも進化しないし、劣化し始める

ところが、今私はボタンを押せば何でも分かるし。それで、解析するにはセルフオンでポンポンポン。「はい。何?」「何処何処に行きたいのです。」って言ったらポーンて出て来でしょう? 自分で探さない。だから、心がドンドンドンドン退化して、機械を多分埋めているかも分

からない。チップス。だから、生まれながらにして全部分かるのだけれど、それは体験ではなく、自分のこの体験ではないインフォメーションだから、幾らそれをやっても、結局、映画を観ているみたいなもので、自分の体験ではない。何時までも、それで進化しない。結果的には劣化し始めて、銀河帝国でも崩壊してしまうわけです。

だから、寿命が長い短いと言う事よりも、この今の私たちの DNA が、お釈迦様もこの DNA を持って、で 100 歳の寿命体だから成仏されたのです。これがあんまり低かったらまた出来ない。だから、100 歳から 50 歳の間。50 歳以上。ここの寿命帯の生命体を持てばチャンスがあるわけですね。でも、大昔からそう言う外的生命体とか言うのはもう優れているので。まず遊びを与える。娯楽を与える。それで、または徹底的に恐れおののく、そう言う心を植え付ける。テロー(恐怖)。もう一つは、その娯楽とか恐ろしさのために死ぬだけ働かせると言う手法を延々と続いているわけです。だから、それで色んな神事とか不思議な事をこう色んな手品みたいに皆さんに見せたりして。結局、心が進化しないわけですね。

お釈迦様の純化された DNA を本当の心の旅、法の旅により段々わかって来る

それで、お釈迦様のこの過去のお話をずうっと見ていけば、道芸師の貧しい子供に生まれてみたり、乞食みたいにして生きたり。それから普通の旅商人になってみたり、それから例えば大臣になってみたり。本当の人間の生活を延々と続けて来て、この DNA の為に色んな修行をして来たわけですね。お釈迦様が 200 年の生命体だったら、私達には宇宙の究極の宝法をお受け出来ないと。もっと純化された DNA だからね。千年となればまた違う。だから 100 年と言うのは、100 歳と言うのは仏の中で一番短い寿命体なわけです。それだけ悪世の世の中。悪世。汚れたと言う所に降りて来られて、これだけの事を私達に教え、その与えてくれたわけですね。

こう言う奇跡的な事はやっぱり旅を通して行って段々分かって皆様にお話ししているのだけれども。日本ではこの隔離された社会で殆んど外国に出られない。これだけ外国旅行しても、本当に心の旅と言うのは非常に難しく。パリとかニューヨークとかロサンジェルスとかね、ハワイとかそう言う所に行って「ああ、違うなあ」って、それですぐ帰って来て。まあ、それも心の勉強にはなるけれど、やっぱり本当の心の旅で、法の旅から見たら、一回の旅で、法の旅をすれば、千冊以上の本を読んだのと同じです。

それで私は旅に次ぐ旅、旅に次ぐ旅で。まあ、そう言う事で何の因果かパオに最後はどうとう辿り着いて。そこに行く目的は、そこでは四界分別を教えてくれるって。「そう言う凄い法があるのか？」と。それで、まあ最後、こうヒマラヤを回って玄奘大師みたいに陸路、陸路でね。飛行機で行けば何も見えない。点から点で何も見えません。ところが、陸路、陸路で行けばね、やっぱり苦勞する代わりにそれだけのインフォメーションが入って来るから。旅とか景色とか、人とか、色んな事であって。それで、最後にモーラミヤインのパオ僧院に入って、そして「わあ、こういう事か」と。ブッダガヤでお釈迦様が悟られて、その時は分からなかったけれども、「いやあ、これは、私は教えられない」と。「教える事は不可能」と。お釈迦様の気

持ちが分かりました。「いやあ、すぐ涅槃に行こう」と言う気持ち。

私は理工系なので緻密な事を分かっているけれど、いやあ、心の仕組みはもう今のコンピューター以上になっているわけですね。「良くまあ、これ嘘でしょう？」と言うくらいもう精巧に、サンカーラ(saṅkhāra:行、形成作用)。『観自在菩薩行深』と、『行』、『深』。それだけ。そこがパオのダンマヌパッサナー(法随観)。「これは、私は無理。絶対教えられない」と。それで、まあまあ、まあ日本は仏教があるから大丈夫だし。カナダに帰って悠然と。それで、まあ因縁で日本にもパオをやっている事でクルーッと見たら、「いやあ、ちょっと話と違うし。まあ良いでしょう」と思って、またちょっと一回その時にお話して、そのご招待を頂き、こうなったわけです。これはもう因縁なのですね。最初日本に来る気は全くなかったし、誰も知らなかったし。日本では私の教えは全く異質だから、果たして理解していただけるのかと。全てはお釈迦様に委ねてで、こうなったのです。

でも、韓国でもお坊さんと討論してやっぱりショックを受けるわけですね。堂々とトントン、トントン、トントントンと説明しているから。それで、やっぱり韓国でも非常に大切にされるし。やっぱり最初30、40、50年以上、、、？45年前に私の先生、印幻先生に出会って。この人は東京大学の文学博士で、インド哲学をされて最も素晴らしい基本を教えてくれて。東国大学の学長もやられてね。だから、マンツーマンで個人教育を受けたわけですね(笑)。

かたや検証なしの言葉並べ、片や師からの心心伝印の無言の種を植えてくれる

ま、そう言う事でやはり皆さんに説明した東京大学の教授の抜けている事をボンボン、ボンボン言っているけれど、何も私はその学長をけなしているのではないですよ。やっぱり、実践の修行からみた場合には、相当外れているなど。さっき言った様に、宇宙人でもここは解析出来ないのですよね。今の人間の作ったコンピューターでも解析出来ないし。それを解析する力もないと思う。ロジック、理論では。理論の基本がやっぱり数学だから。数学となればその基本が微積分のカリキュラスになるから。だから、それもある程度はされているのだけれど、それもある程度深く勉強をして、今度はそう言うロジックに入って行っても、ロジックのベース・インフォメーション(基本情報)が確定していなければ、人からのまた聞きで…。

結局フィールドリサーチ、検証なくしてその言葉を並べた場合には、結局私が言った様に『楞伽經』を解説された『仏教講座』の高崎先生みたいになるのですけれども。それは、これを読んだら彼は天才的な頭脳だと分かるのだけれども。結局惜しいかな、検証が無いのですね。だから、全部他の人のロジックを合わせるから、もう五目飯になって、何が何だか分からなくなってしまう。

だから、そう言う点では私は沢山の偉大な禅師に出会っているのですよね。禅師に出会って何がそんなに得するかと言ったら、心心伝印でバーンと一回毎にに無言の種を植えてくれるわけ。一番凄かったのは、韓国の通度寺のオーラスニム(月下和尚様)。月の下と書く先生で。大先生。その人はもう最高位ですね。近年においてもその方を抜きん出る人はいないのだけれども。わざわざ、彼の方丈に呼ばれて、一緒に床の間で王子様みたいにしてくれて。

それで、普通は門まで出て送らないのに私はこうタクシー乗って出てくる時、わざわざ後ろから駆けつけてくれた。その時、観音様のお力なのですね。エネルギー。サーッ！と後ろから。分かります。「あ、凄い観音様の力だ」と見たら、オーラスニムだった。だから、比丘の男であっても女性以上の慈悲の力、優しさの光。サーッと出すのですね。だから、そこで心心伝印でバーンと植え付けてくれた。

それで、またカナダで出会った。この人も方丈さんになって。その通度寺で。その後、KBSと言ってNHKみたいなそこの社長さんになって。韓国は軍人とかそういう精神界の高い人を会社の社長にしてしまうのですね。日本はビジネスだけ。と言うのは、若い国で、戦乱が起こって統制経済で行くから、こう将軍がトップに就いて、それでガーと進めて今みたいになっているから。それが良いか悪いかは別として。そのKBSの社長さんになったのだけれど、この方も私を見てスーッと。瞑想ばかりして。小さい時からやっているし、鍛えられているから。やっぱり、その人から貰った掛け軸、深い意味を持って、凄く深い教えがありますね。

と言う風に、やっぱりうちのお父さん、お母さんの、朝鮮半島から来て日本の弘前で生まれて、やっぱりそういう深い因縁があるわけですね。それが無くして私はここまで来れなかった。それで達磨大師の極意は結局、韓国に残っていたのですね。曹溪宗。そこの最高のお坊さん方から直接、心心伝印を貰ったわけです。で私は良く学生の時とかそういう時から、「達磨大師に会いたい、会いたい」と思いながら、読んで、読んで、読んで、最後に少林寺に行きましたけれど。と言う風に、こう仏縁なのですね。

水源禪師のご先祖様の2千年、5千年の杓子で測らなければ

ここに新潟から来られている方がいますけれども、新潟は高麗王朝と凄い深い繋がりがあ
るのですね。関西のこの大和は、結局、伽耶の国、私のお父さんが生まれた国と非常に深
い繋がりがあ
る。だから、歴史をずっと調べてみれば全て因縁なのですね。因縁、因縁に
なってしまう。で私の氏、藤原氏と言う氏名はね、氏族名。日本では藤原と言うでしょう。私の
氏族名は漆原。漆原なのです。だから、そういう風に、日本の文化と朝鮮半島の文化は非常
に繋がっているわけです。氏族も武士の「士」ではなく。源氏の氏族の事だから。だから、私
の家系はずっと氏族家系で。それで、生まれた所の、800年前の王様から貰った碑石とか
色んな所を調べたら、やっぱり私が生まれた津軽と交易しているわけですね、ずっと。と言
う風に因縁、因縁です。

それでやっぱり、二千年前の中国の私のご先祖様はやっぱり日本を創ったと言う伝説が
あるわけです。全ての文化の始まりは私のご先祖様から出来ている。と言う風に、もう結局
ジャータカ物語を見て行けば、因縁の事ばかり書いてあるわけです。それしかないわけ。
その因縁の中で一番大切な事は、「人を裏切らない」と。確かに私の家系をずっと調べて
見たら、私の家系ただ一つだけ、中国五千年の歴史で、王を裏切らなかったのは私の家系
だけなのです。だから、今でも中国ではもう神の家系になるから、私が行けばもうすぐ分かる
わけです。誰が来たかと。

と言う風に、三国に渡る広大な歴史があるから、私にとってこの地球の歴史を調べても、私のこの二千年、五千年の杓子で測るものだから、何ともないわけです。一般の方は本当はそう言う歴史があるけれども、全部消されているから、たかだか100年、400年、500年。まあ、結局天皇家になれば二千年。実は三千年の以上続いています。その前の歴史は宮内庁がちゃんと持っています。一般的には公開されていないけれど。だから、そう言う杓子で見て行けばね、私達は戦争して浅はかに生きているのは、結局、本当の事を教えない様にしているわけです。それで、戦わせて、それでやっぱり、トンビが油揚げを何か獲ると言う風なシステムですね。この大体、この地球は。まず、戦わせて、へこたれてその時にトンビが油揚げをさうと言うシステムで。

ちっちゃいお椀の中に閉じ込められている心は、実は宇宙よりも大きい

でも、そう言うシステムでも、こう言うお釈迦様の永遠なる宇宙の最高の叡智は、愛の塊の事を教えてくれるから。もう、これ以上の叡智は無いわけです。『阿耨多羅三藐三菩提』。これは言葉では言えない。体験しかない。だから、幾ら五千年、万年の歴史を持つとか、栄華を持っても、この『阿耨多羅三藐三菩提』に繋がる般若心経を皆さんが持っているわけです。手にしているわけです。この般若心経の繋がりによってお釈迦様の法随観に繋がり、またヴェダナーヌパッサナー、カーヤヌパッサナー、チッタヌパッサナー全部繋がっていきます。

だから、日本にはこの般若心経、もちろん、中国、韓国、チベット。大乘般若心経だけです。本当に。それだけ偉大なもの。これを如何にして具現化するかと言う課題は、私達一人一人のチャレンジで。チャレンジして損はない。チャレンジしなくてただ題目で終われば、ダイヤモンドを溝に捨てるみたいなもの。殆どの人はもうダイヤモンドを溝に捨ててこの人生を去っていると。

それで、閻魔大王が出て来て、死ぬ時に。それは、一般の時に発生します。何故発生するかと言ったら、結局心が進化していないから、そう言う過程で輪廻転生を觀せます。ところが、心が進化した時にはポーンとその過程なしでスッとして行ってしまう。ところが、明快に次の人生がどうなるかという事で、閻魔大王とかそう言うマーヤとか。西洋も一緒です。裁判官が。そう言う時空に行って、その時空がね、結局心が進化して行けば、もう縮まって要らないのです。ポーンとそこ行ってしまう。また、デバダッタみたいにね、強烈な悪事を働けばそれもまた空間がこうなって、それで直接ポーンと最後落ちて行ってしまうと。面白い仕組みで。

まあ、また話がごっちゃになっているのだけれども、私が何故こう言うかと言えば、皆さん一人一人、私の家系みたいに広大な、壮大なロマンティックな歴史を持っているけれども、見えない様にしているが故に、心が進化出来ないわけです。この体一つ一つ、そこに出会って出来ているわけ。ところが、そこを見せなかったら、心が進化出来ない。私が宇宙の事とか全部言うのはそこにあるわけなのです。それでその代表としてこの宇宙の事とかいっぱい理工の事をお話するのはそこにあって、心を大きく、大きく見開いて欲しいと言う。それによって、心が、この宇宙よりでかい心が、このちいちゃい、ちっちゃいお椀の中に閉じ込めら

れているから、結果的に何時でも「苦しい、苦しい」となるから、そこから出て欲しいから、殻をボーンと破って私がいっぱいお話するから、分からないのは、それは仕方ない。

ただ一つ「心の徳」だけが災難を防ぐ

と言う風に社会がずうっとなっているから。逆に何にも知らなかったら、殻がないからスーッと行ってしまうし。ところが、途中半端に教えられて、「ああだ、こうだ。ああだ、こうだ」と言ったら、もうそれが手枷足枷になって、もう只々一つ心の徳ですね。徳。徳だけが救いになるけれども。なかなか徳が実行出来ない様に出来ている。実行出来ない様なシステムになっているでしょう？そうでしょう？難しいでしょう？会社の中。そうなの。私もそう。非常に苦しい、働いている時は。徳を積ませない。積ませない様に。悪い事をすれば勲章なわけです。嘘をつけば「良し良し」となる。本当の事言えば罰せられる（笑）。そこを何とか誤魔化して、誤魔化してここまで来て、こうしてまだ生きています（笑）。

だから、「全てこの世は夢」って言うのは本当の事。全て夢です。皆さんが「ああだ、こうだ」とこう思っている事は、実は存在しないのです。ただ一つ徳を積む事だけで、こうして皆さんが大徳を積んでいるわけですね。瞑想して。最初からもうだから言ったでしょう？「北朝鮮のミサイルは来ないですよ」って。来ていないでしょう？「爆発しない」って言ったでしょう？「心配しなくても良い」って。「あなた方が今、法の勉強して持っているから、これは宇宙の神様でも潰せないですよ」って。それで「あなた方がこうして一生懸命徳を積んでいけば、南海トラフ、あれも破裂しないですよ」って。摩訶不思議なのですよ。

ただこの日本に、今こうして集まる会がいっぱいあれば、日本が益々安定して幸せになるけれども、またこれをさせない様に、させない様にして、爆破したいのですって（笑）。いや、本当に。本当に爆破したいのですって。爆破すれば誰かさんが物凄く儲かるらしい。つまり、全て損得、損得で。それはね、ある程度の儲けは良いのだけれども、そう言う風に底知れない強欲は結果的に全てを失うわけなのですよ。

お釈迦様がサラバッターの町で大商人だった（ジャータカ物語）

それで、お釈迦様がその昔祇園精舎、（サラバッター）って言ったら、音楽の町で。サラバッターって言うのは、いつも琴を弾いたり、古琴とか。そう言う風なお寺に行けば、そう言う風な聖者が弾いているとか。仏の弾いている絵があるでしょう？あれがサラバッターなのです。で富を与える町なのです。その昔にその町にゴータマ菩薩様がその町に生まれたわけですね。それもまた、はるか昔のブラマダッタ王の時に、という事で。

それで、サラバッターの行商人は旅に出る前にお釈迦様を呼びして、おもてなししたわけです。「これから、私達は旅に出ますから、私達を加護して下さい」と。それで、たくさんのお布施したわけです。その町では、年に一回行商に行く訳ですね。瀬戸物とか色んな日常

製品を売るために、牛車に山と積んでキャラバンで行く訳です。それで行っている最中に喉が渇くでしょう？喉が渇くから、それで井戸を掘るわけです。井戸を掘って行ったら、何とそこに鉄とか亜鉛とかラピスとか、それから銀とかそういう宝石がいっぱい出て来たわけ。それで、喜んでしまっただけ。

それでその後、その商人は牛車に商いの品を積んでキャラバンで行って、井戸の宝物も一緒に積んでね。それで、品物を全部町で売ってお金にして、その宝石はサラバティーに持って帰って、ちゃんと蔵に入れてジッとゴータマ菩薩様を来るのを待っていたわけです。お釈迦様がまた、竹林精舎から祇園精舎のサラバティーに来るでしょう？それで、お話しするのをジッと待って、「おもてなししたい」と。実はお釈迦様、「こう、こう、こうでこうだったのです」と。「あなた様が来るのを待って、おもてなししたい」と。「色んな品物も渡したいのです」と。それで「僧院の比丘達にもお布施したい」と。

そして、お釈迦様がこう言ったわけ。「そうかそうか。実はこれは今始まった事ではない」と。「遠い昔に実は私もまた商人として生まれて、行商に出た」と。キャラバンで。その時ずうっと行っている時に、同じような所で水の匂いがしたと。それで、旅している時に水が一番必要なのですよ。だから、私がカイラス山行った時はコップ一つ。山に行けば水があるから、コップがあればスッと飲めるでしょう。口ではなかなか飲めないのです。ポトポトと垂れてもコップを置けば溜まっていくから、それでクッと飲めるでしょう？水がなければこれはホントに大変。だから、水だけあればもう全然心配ない、殆ど。後は寒さ、ね。寒さと暑さをその状況で如何に防ぐか。いずれにしてもそうすれば一か月は歩いても大丈夫。

話は戻るけれど、それで、水の匂いがしたと。掘って行ったわけなの。そして、掘って行ったら、やっぱり同じ様にそういうフィールド・スパとか。フィールド・スパと言って、緑で非常に綺麗なのですよ。エメラルドではないのだけれども。そう言う風に、宝石とか色んな高価なものが井戸を掘って出て来たわけ。それで、その時ゴータマ菩薩がその行商人で、一緒に行った仲間に「皆さんもうやめなさい」と。沢山採りすぎれば「良い事は無いですよ」と。「ほどほどにしてやめて行きましょう」と。

ところが、行った殆どの人は「いや、もっともっと採りたい」と。結局、船も魚を獲りすぎると転覆してしまうわけですよ（笑）。ホントの話。もっと獲りたいと。船を山積みにして転覆したと言う話は良く聞きましたよ。まあ、それでその時下に住んでいるナーガが「おかしい」と。「こうしていっぱい、砂利が降りて来てこれは一体何だろう？」と。それで、スーッと見てそう言う事しているから、一瞬にしてナーガの毒をサーッと噴出したわけ。そして、やっぱり死んでしまったわけ。だから、程々にして止めたなら良いのに、止めない人は全部死んで。

それでゴータマ菩薩は、結局逆にナーガの王様から非常に尊敬されて、それでゴータマ菩薩の牛車はいっぱい金銀ザクザク入れて、そして無事にサラバティーに帰り。それでゴータマ菩薩はその金銀ザクザクをずうっとお布施して行ったわけ。比丘にやったり。それで、インド中で非常な評判を取ったと言う事で、益々徳を積んで行ったわけです。

まあ、そういう風に、ま、程々にして。それで瞑想もね、欲張らずに。欲張らずに、ある程度して一休み。一休さん。ある程度して一休み。それがね、やればやるほど「あ、これが出来た。あれが出来た」で、ドンドン、ドンドンやって行けば、また、それもそう言う欲に繋がりますから、

出来ても、出来なくても。私もいつも出来る訳ではないけれど、「ああ、今日は出来ないな」って坐っているわけ。それもまた楽しくて、観ているわけ。心を。だから、出来ないと言うのは凄い勉強になるわけ。自分のね、心を観ているから。どういう風な心になっているかずうっと観えるわけ。「ああ、荒れているな」と。「この荒れているのはどこから来ているのか」と。やっぱり、ちょっとした因果関係で、その前の日とか色んな日にちょっと嫌な事が、そこをつついて出て来ているのだなと。「過去の嫌な事が突然フーッと上がって来て出ているなあ」とか。

そして、観たら消えて行くわけ。スーッと。で治まる。でまたフラフラ、フラフラとなって。何だろうと(笑)。で、良い時にはスーッと何にも出なくて、「気持ち良いなあ」と。それが、成功したと思うけれど。まあ、それはそれで進化して良いのだけれども、結局晴れもあり、雨も降り。それぞれ宜しい。という事で。だから、晴れ、晴れ、晴れだけが良いと、そう思わずに出来ても、出来なくても宜しいと。淡々とやって行けば、段々、段々本当の心の木が成長して行って、ドンドン、ドンドン。目には見えないけれど。巨大な観音様になって行きます。ま、こういう話です。皆さんご苦労様でした。



水源禪師法話集 80
(2017 年 5 月 7 日 大阪合宿 9 日目)

2018 年 9 月 29 日 発行

編集兼発行 一乗禅の会